

## 屋久島生態系モニタリング

### 屋久島中央部の植生垂直分布調査(平成 24 年度)

●標高 1400 地点(No.2 プロット)高塚山から小高塚山へ向かう稜線  
 [高木層 7-15m]最上層の優占種はスギだが、樹冠のよく発達したヤマグルマやヒメシャラ(この階層で個体数最多)も多く、ユズリハ、ヤマボウシ、タンナサワフタギが混生。[亜高木層 3-7m]やや高木層と連続するが、植被率は 20%と低く、ヒメシャラ、ヤマグルマが比較的多い。[低木層 1.2-3m]ハイノキが非常に多く、サクラツツジ、ヒメヒサカキも多い。個体数は少ないがヤクシマシャクナゲ、アセビが生育。密度は高く植被率 80%。  
 [草本層 1.2m 未満]ヒメヒサカキ、ヤクシマシャクナゲ、ハイノキ、サクラツツジの種樹が比較的多い。草本ではコバノイシカグマ、ベニシダが多い。被度には斑がある。岩角や樹幹上のシカの食害を受けにくい部分にはやや希少な植物種も出現。[群集及び特徴的な出現樹種]スギ・ハイノキ群集、ヒメシャラの個体数が多く、樹冠の発達したヤマグルマも多い。特徴的な樹種は、アオツリバナ、ナナカマド、ヤクシマシャクナゲなど。オオヤクシマシャクナゲも見られ、ヤクシマシャクナゲとの境界線とみられる。  
 [植生の 변화考察]前回(H19)から、高木層のヒメシャラやヤマグルマの上長成長と樹冠域の拡大により、高木層の植被率が 80%に増加。その影響で、高木・亜高木のリュウブ、ユズリハ、タンナサワフタギ、ヤマボウシの数本と、亜高木・低木のサクラツツジやハイノキの一部が被圧枯死。比較的に陽光を好む樹種は、亜高木層の中で埋もれてしまうと、被圧し衰退・枯死する傾向が見られるので、階層構造の成立という観点では、植生遷移の過程と思われる。また低木層のサクラツツジやハイノキも多くが衰退・枯死しているが、その環境を生き延びると急激に上長成長を始め亜高木層の仲間入りを果たす個体もあった。ヤクシカによる下層植生への食害は、標高 1200m とほぼ同じような状況であり、ヤクシカの不食種のハイノキやヒメヒサカキ、ユズリハ、ヤクシマシャクナゲ、サクラツツジ、アセビ、コバノイシカグマ、ベニシダの割合が増加。ただし、ヤクシカの不食種であってもサクラツツジやコバノイシカグマ、ベニシダ等にはヤクシカによる食痕がわずかに見られた。

屋久島、種子島にのみ自生しているヤクタネゴヨウは 2000 本と推定されています。3月6日、平成 26 年度松枯れ対策協議会屋久島支部会が開催されました。昨年度の松枯れの対応についての報告、現状の取り組みについて報告がありました。  
 当協議会は、松くい虫等による被害木の除去や防除に役立てようと平成 17 年度から活動しています。



会議の様子

## 「松枯れ対策連絡協議会 屋久島支部会」開催

### シカ対策の取組、九州農政局が視察

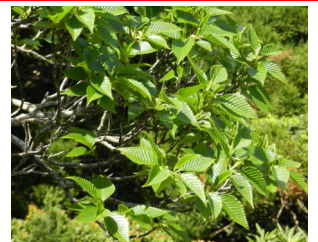
3月12日、13日の両日、九州農政局生産技術課より渡邊康広課長補佐、田中浩一鳥獣災害対策係長が屋久島を訪れました。

ヤクシカ対策の現状、森林と農地等の被害状況についての取り組み、また、地域における連携した被害対策について現地を確認しました。宮之浦林道ではシカ罠設置について視察。また、西部林道では植生保護柵について視察されました。

### 屋久島レク森協議会総会

3月25日、離島開発総合センター(宮之浦)において、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の平成 27 年度 3 月期総会が 12 会員中 10 会員出席 2 会員委任状の下開催されました。荒木耕治会長は、挨拶の中で平成 26 年度は夏期シーズン中の度重なる台風襲来や冬場の積雪による閉園がヤクスギランドで 11 回を数えながら、オフシーズンにしては、1月2月は両休養林とも好調な滑り出して、白谷雲水峡では夏場

### 屋久島の植物



ヤシャブシ  
(カバノキ科)

本州以南に分布する落葉小高木。屋久島では標高 1500 以上の高地で見られる。葉は側脈や重鋸歯が目立つ。花期 3~4 月、果期 10~11 月。低地の道路沿いで見られる大型のものは別種のオオバヤシャブシで、砂防樹・緑化樹として法面に植栽される。

に激減した入林者数を取り戻し、2月末累計で前年度を上回ったとの報告がありました。ツアーなどの団体客や外国人客が増加してきているようです。  
 協議では、事務局から平成 26 年度補正予算(案)、平成 27 年度年間活動計画(案)同予算(案)等が提起され、原案どおり可決されました。それらの議案の中には、白谷雲水峡二代大杉の樹勢回復事業と同時に迂回路新設工事がありますが、これについては 3 月末から 5 月末を工期に工事が行われますので、利用者の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

### 銘木市

3月5日、鹿児島県木材銘木市場(鹿児島市)において、屋久島杉土埋木の委託販売を実施しました。当日は、全国各地から応札者及び見学者総勢 140 名程度の参加が



賑わう銘木市場の様子

# 平成 27 年度業務予定

屋久島森林生態系保全センター

## 1 森林生態系保護

### (1) 地域連携推進等対策

#### ① 天然生林管理水準確保（森林保護員(GSS：非常勤職員)による巡視等）

- ・ 森林保護員の雇用によるきめ細かな保護管理等
- ・ 入込利用者への指導・啓発

#### ② 縄文杉木製デッキの撤去、資材搬出等

- ・ 平成 27 年度に環境省が予定している縄文杉北側の代替デッキ工事の進捗状況に応じて南側デッキの解体、撤去について検討

### (2) 保護林等整備・保全対策（世界遺産保全（登録地域・暫定地域保全）

#### ① 屋久杉の樹勢回復措置（縄文杉ほか著名杉）

#### ② 生態系モニタリング調査（垂直分布調査ほか）

#### ③ 外来種アブラギリ、カシノナガキクイムシ被害状況モニタリング

#### ④ マツクイムシ被害状況調査（署・センター・森林総合研究所）

### (3) 気象モニタリング

- 雨量、気温観測

### (4) その他

#### ① 森林生態系地域等の森林パトロールの実施

#### ② 縄文杉歩道及び縄文杉デッキのあり方検討

#### ③ シカ対策関連業務、局委託調査協力、有害鳥獣捕獲等

## 2 普及教育及び森林空間総合利用等

#### ① 森林教育等の実施（他機関等との連携・協力）

#### ② 自然休養林内等での指導・パトロールの実施

#### ③ 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への助言・指導

#### ④ シカ柵の保護管理等

## 3 その他

#### ① 関係機関との連絡調整

#### ② 学術調査研究等に係る入林手続きの接受及び指導等

#### ③ 広報紙「洋上アルプス」の発行及び年報の作成

#### ④ ホームページの更新

#### ⑤ 学術論文等のデータベース化

#### ⑥ 「手作り図鑑」の印刷、製本、配布

- 4月1日付転入
- 所長 山下 義治（九州森林管理局 森林整備部 技術普及課企画官）
  - 生態系管理指導官 山崎 勇勝（西都児湯森林管理署 総括事務管理官）
  - 4月1日付転出
  - 九州森林管理局 森林整備部 資源活用課長
  - 前田 三文（所長）
  - 九州森林管理局 森林整備部 技術普及課技術開発主任官
  - 猪島 浩晴（生態系管理指導官）
  - 熊本森林管理署 地域統括森林官 酒井 昭則（自然再生指導官）

### 人の動き



屋久島の樹木214種を紹介したこの図鑑は、当センターの職員がこれまでに撮りためた写真をもとに作成した手作りの図鑑です。

森林生態系の現状を知るために、どのような植物がどのように分布しているかを把握する必要があります。特に樹木の見分け方にはポイントを置き、木々をあまり知らない人も見分け方が掴めるよう工夫しました。

### 「手作り図鑑」作成